

授業力・担任力を高める小中高合同勉強会の実践

岡本 弘之（聖母被昇天学院中学校・高等学校）

1. はじめに

勤務校は小学校、中学校高等学校が併設され、従来教員研修や授業研究もそれぞれの組織単独で行われてきた。その一方で、教育の現代的課題である「ICTを使ったわかりやすい授業づくり」や「保護者対応」など小中高共通の課題も多く、またいわゆる中1ギャップをなくす意味でも小学校・中学校の教員が共に学び、お互いの教育内容・方法を理解することのメリットは大きい。そしていずれの職場も若手教員が増える中、授業力や担任力といった教師の基本的スキルを向上させたいというニーズもあった。この背景の中、2010年4月に教員有志で小中高合同の「自主勉強会」を立ち上げた。月1回程度の頻度で集まり、模擬授業・事例報告・意見交換といった「横のつながり」の中で、授業力・担任力の向上をめざすこととした。

2. 研究の目的

本研究では、小中高教員が合同で行う勉強会の実践が、各教員の授業力や担任力といった力量向上に効果があることを検証したい。同時に勤務校の課題である「経験の浅い教員の育成」、「小中高の連携」についても、その解決に貢献したいと考える。

3. 研究の方法

企画母体となる運営メンバー（小中高教員有

志）が企画し、校内で広く参加を呼びかけながら小中高合同の勉強会を月1回・年間10回程度実施する。

勉強会の方法は、授業力向上・担任力向上に向けたテーマを毎回設定し、小学校・中学校高等学校教員による模擬授業・実践報告と参加者全員による意見交換会の二つの内容を軸とする。評価については、中間評価と最終評価の参加者へのアンケートによる評価を実施し、勉強会の効果・意義について検証するものとする。

4. 実践の結果

4.1. 勉強会のテーマ・概要・参加人数

2011年度の勉強会の内容・テーマは以下のようなものであった。大テーマを年度の前半を「授業力向上」、年度後半を「担任力向上」として、参加者の意見を聞きながら運営メンバーで各回の小テーマを設定、発表者依頼を行った。詳細・参加人数については、以下の表のとおりである。

表1 テーマ一覧表

日時	テーマおよび内容	数
1回 5/6	模擬授業 「書画カメラを使った社会の授業」(中高教員) 「デジタルカメラを使った理科の授業」(小教員) 意見交換会「授業でどうICTを活用するか」	8
2回 6/18	模擬授業「中学1年の理科の授業」(中高教員) 座談会「受けた授業でよかったこと」(実習生)	15
3回 7/28	模擬授業 「中学3年国語 詩を味わう」(中高教員) 「小学1年国語 音読の授業」(小教員) 意見交換会 「児童生徒に足りない力・つきたい力について」	18

4回 5/6	模擬授業 「小学校低学年の英語の授業」(小教員) 座談会「実習生からみた印象深い授業とは」	16
5回 6/18	模擬授業 「中高の人権教育のホームルーム」(中高教員) 「小学校での人権教育の授業」(小教員)	8
6回 12/6	事例研究「一人の生徒の事例」 (小・中高教員が同じ1名の生徒について報告) 意見交換「学校カウンセラーを招いての研究会」	11
7回 3/2	発表「主体的に学習に取り組む生徒づくり」 (小中教員が話題提供、その後意見交換)	5

4.2. 勉強会の内容の記録と共有

各勉強会は前半に授業・事例発表、後半は意見交換を行う形で進めた。以下は第3回、第6回の勉強会の記録の一部である。

4.2.1 第3回勉強会記録

<第一部 模擬授業の記録>

中高 I 先生「中学3年国語 詩を味わう」

- 教科書の最初の単元にある、長田弘の詩「最初の質問」の教材を使った模擬授業。この単元に5時間をかけて、丁寧に作者が言いたいことや言葉の大切さについて考えさせる授業
- 小学校 I 先生「小学校1年国語 音読を軸においた授業」
- ひらがなの学習の後、1学期最後に学習する読み物の「おおきなかぶ」の模擬授業。小1はほとんどノートを書かないので、何度も音読をさせながら考えさせ、そこでわかったことをふまえて音読で表現させる授業

<第二部：意見交換・経験交流>

◎中高の I 先生の授業について

- 小学校に比べ難しい教材と思う、形式段落に分けさせるなど単なる鑑賞だけでない所が深い
- 詩の鑑賞や音読でも、繰り返しの音など音の響きがおもしろく、理屈でなく感覚的にもおもしろい
- 詩の授業は教師によって時間数ややり方が異

なる、そこが面白さでもある

- 興味関心を持たせるには少し長めの時間配分が必要に思う、丁寧に指導を行う大切さを感じた
- 学年最初の授業にかける思いが伝わる。教師が読むときには生徒の中に入りながら読むとよい

◎小学校 I 先生の授業について

- 小学1年生の授業は集中力を持たせるのが難しい、違う話を挟むなど臨機応変な対応が必要
- 音読は脳の活性化につながるし、繰り返し読むことで児童は話を覚えてくる
- わからない言葉について、小学校では辞書をこまめに引かせるようにしている
- 私立小なので最初からすらすら読める児童が多いような気がする
- 中学の国語の授業でも音読は好き

<第三部：意見交換「今の児童生徒に足りない力・つきたい力について」>

つぎに上記のテーマで普段感じていること、その対策について意見交換を行いました。

- 今の児童生徒はよい絵本や本を読んでいない、「おすすめ本100冊」の取り組みを行いたい
- 音読は上手だが、読解・文章を書くのは上手ではない、自分の考えを文章で表現できる力が必要
- 小学校では、国語の授業で発言の仕方や、普段で正しく文章で話すように指導している
- 勉強方法がわかっていない生徒は、何をしたらいいかわからない。教師は自分で調べる方法を教えないといけない
- 最近の生徒は間違えることを恐れて発言をしなくなった。間違いを恐れず発言する力も必要
- 知的好奇心が少なくなり、聞く力も弱くなった。聞く力は自分の考えをじゅうぶん聞いてもらう経験がないと聞く力は育ってこない気がする

- ・電車の中の親子の会話を聞くと、単語だけであったり、言葉遣いが荒かったりと心配である



写真①
模擬授業風景

- ・周りの生徒について、毅然と「誰に対してもとってはいけない対応がある」と指導したのがよい
- ・本人が成長していけば、保護者の気持ちも安定していく、指導の対象は保護者ではなく本人をどう成長させていくかが大事である
- ・これらの働きかけの中、本人の成長が明らかに見られた
- ・本人が成長すれば周りの生徒の対応も変わってくる、今回の報告ではどちらの成長も感じられる



写真②
意見交換会風景

4.2.2 第6回勉強会の記録

<第一部 事例報告 (17:00~17:40)>

中高教員

- ・一人の生徒の事例について、生徒の状況・保護者の状況・他のクラスメイトの状況を含めて詳細に報告いただきました。また4月からのその生徒の様子、時期ごとの課題、それについての指導、そして生徒の成長について具体的に報告

小学校教員

- ・同じ生徒について小学校の時期の同様の状況、本人・保護者・周りの生徒への指導について報告

<第二部 意見交換 (17:40~18:30)>

- ・発表についての質問・意見を交換し、発表者や参加者から補足、その発表をふまえ、学校カウンセラーに三つの視点（本人への指導、保護者への指導、周りの生徒への働きかけ）で、今回の指導のポイントをふりかえった

<学校カウンセラーの話>

(事例のような生徒の指導では)

- ・本人には具体的な言葉・働きかけを行ったのが良い（してはいけないではなく方法を教える）
- ・がんばる場面・気を抜ける場面を作った指導もよかった（ここではだめだが、ここではよい時間・場所を持った指導を行ったこと）
- ・本人を受け入れる時間・話を聞く時間を作ったのがよかった（定期的に話を聞く時間を作った）

4.3. 勉強会実施後の共有

勉強会実施前には詳細な内容を書いた案内文書を書き、勉強会終了後にはその内容を書いた報告書を、非常勤講師を含めた小中高教員全員に配布した。この勉強会の取り組みを発信することで参加者を増やしたいという思いと、参加できなかった人にもこの勉強会の内容を共有してもらうことがそのねらいである。

報告書には参加メンバーやその回の報告内容の要旨、意見交換で出た意見をまとめた。

5. 教員アンケート結果

2010年度の教員アンケート結果（今年度は最終回に実施）の回答結果は以下のとおりである。

5.1. 中間アンケート結果

「勉強会で参考になった点」について複数回答で質問した結果、以下のようになった。

- ・意見交換の意見が参考になる……………13
- ・他の学校種の授業内容がわかってよい…… 7

- ・他の学校種の授業の進め方がわかってよい 7
- ・模擬授業が参考になってよかった…………… 6

(2010年7月29日実施 回答13通)

5.2. 最終アンケート結果

最終アンケートの主な項目・結果のグラフを掲載しておく。(2011年2月3日実施 回答19通)

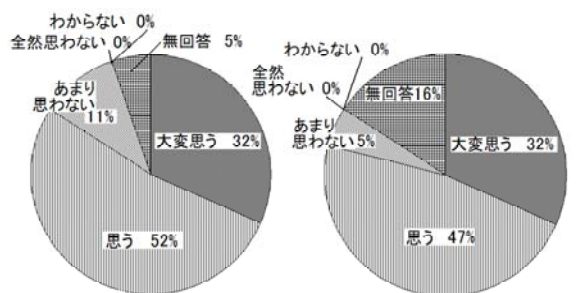


図1 他の学校種の授業の方法や工夫がわかって参考になる
図2 学校種が違えど、共通する部分が多く参考になった

6. 考察とまとめ

6.1. 小中高合同で行う勉強会の効果

小中高教員が合同で行った今回の勉強会の取り組みの効果について、通常の各学校内で行う研究会・研修会と比較して次の6点を挙げたい。

- ① お互いの学校種の教育内容・教育方法を知ることができた
- ② お互いの学校種で当たり前に行っている取り組みが交換でき参考になった
- ③ 小学校教員は教科の専門性をふまえた意見を中高教員からもらえ参考になった
- ④ 中学高校教員は教科の壁を越えた意見を他教科教員よりもらえ参考になった
- ⑤ 授業のあり方、担任の指導の在り方など広い視点での意見交換ができた
- ⑥ 小学校と中学高校教員の顔見知りが増え、日常的な相談・交流などつながりが増えた

この6点の効果のうち、①～⑤については「2. 研究の目的」で述べたような「授業力・担任力の向上」に大きく貢献する内容である。①～⑤で得た知見をふまえ、自らの授業・学級経営を

行うことで、これら技術の向上が期待できる。

二つ目の「経験の浅い教員の育成」という視点については、今述べた「授業力・担任力の向上」はもちろん、各回の意見交換で出された多くの経験談、自らが意見交換でぶつけた悩み・思いに対する先輩教員の回答を通じて、自分の授業方法・対応例の「引き出し」の数を増やすこととなった。

三つ目の「小中高の連携」については、⑥の教員の交流・つながりや、①の教科内容をお互いを知ること、従来よりも相互理解が深まり、また毎回顔を合わせることで、お互い聞きやすい関係ができた。

6.2 課題とまとめ

以上実践の効果について述べたが、次のような課題もあげられた。

- ① 教科の専門的な議論は不十分であり、校内の教科で行われる研修との併存が必要
- ② 「経験知」、「実践知」が中心であり、専門的知識についての学びも必要

教師という仕事は、授業においても担任においても、スタンダードなマニュアルが存在するわけではなく、そのとき・生徒によって対応を考えていかざるを得ない経験論的な側面も大きい。このような教育の特殊性だからこそ、このような勉強会の発表・意見交換によってより多くの事例・対応や経験を知っておくことは、教師としての「引き出し」を広げる意味で重要である。こういった教師の成長に貢献できるように勉強会を今後も実践していきたい。

参考文献

- 千々布敏弥編(2009)「現場発学校経営レポート②『授業力向上』レポート」教育開発研究所
佐藤 学著(2009)「教育の方法」左右社